

ヒロシマ復興への歩み

— 被爆後の混乱を生き抜く —

期間 平成25年**1月1日(火)**～**12月28日(土)**

時間 12月～2月 **8:30～17:00** / 3月～11月 **8:30～18:00** (8月は～19:00)

会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー **入場無料**

昭和二十年八月六日

一発の原子爆弾により

広島街は一瞬にして破壊され

多くの尊い生命が無差別に

奪われました。

原爆で家族を失い

自らも傷ついた人々は

食糧や物資の不足に苦しめられ

放射線の後障害におびえながらも

生活再建へと歩み始めました。

企画展では

被爆後の混乱の中を

生き抜いた人々の姿と

復興への歩みを

体験記を通じて紹介します。

被爆者の「いっころ」と「いっごば」に

ふれてください。



浜井 信三氏

(被爆時、広島市職員 (戦時生活部配給課長兼防空本部配給班長)。戦後、4期16年、広島市長を務める)

戦災一ことに火災で全市の水道がこわれ、焼け跡の給水栓がほとんど漏水するため、水圧が極度に低下して、末端まで水がとどかない。市民は毎日水のあるところまで、一日幾度も水を汲みに行くのだが、その苦労はなみだりではないものではなかった。漏水処理班は来る日も来る日も、瓦礫の下を掘りかえし、漏水している鉛管を見つけては、腰のハンマーをとって口を叩きつぶし、水を止めてもらった。一カ月ほど漏水との苦闘がつづいたが、ついに処理班に凱歌があがった。水圧は次第に上がって、台所の水道栓から水がドクドクと出るようになっていった。私はこの給水問題で、人生的な教訓を得た。どんなに不可能にみえることであっても、不断の努力をつづけていけば、自ら道は開ける、ということ。

出典：『原爆市長 復刻版』 発行：シフトプロジェクト 平成23年



杉本信夫氏 作/広島平和記念資料館 所蔵

堀本 春野氏

(被爆時、広島電鉄家政女学校生徒。8月9日に復旧した一番電車の車掌を務める)

今日も母を捜しに行こうとした時に、先生が「今日から市内電車が運行するので、誰か乗務して下さい」と言われました。専攻科の人の殆どの中で、二年生の電車勤務だった私が行く事になりました。己斐の宮島線の詰所に行き、顔も知らない会社の人からキップも釣銭もない鞆を手渡され「お金のない人からは電車賃をもらわなくても、ええで」と言うことでした。乗客は無口な人が多く、「おお電車が動くんか」と驚かれる人。「鉄橋が怖いけん」と有難がる人。「火傷の人、斑点が見える人」色々でした。「有り難うございました」「済みません」と言い、電車賃の払えない人も多かったように思います。車内はもんぺやゲートルを巻き、救急袋や綿入れの防空頭巾、風呂敷包を持つ人は良い方で、手ぶらの人が多かった様に思います。

出典：『広島電鉄開業80創立50年史』 発行：広島電鉄 平成4年



堀本春野氏 作/広島平和記念資料館 所蔵

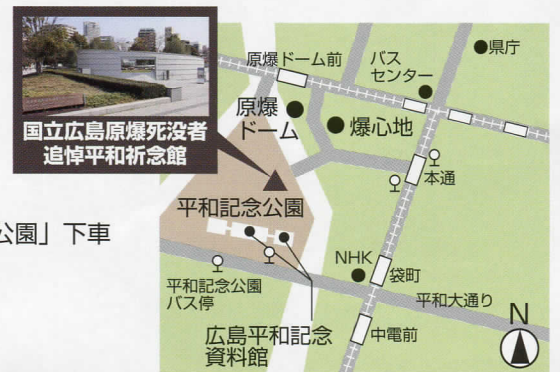
斗栴 良江氏

(被爆時、比治山国民学校教師。後に、広島戦災児育成所・幟町国民学校分教場教師となる)

五日市の戦災児育成所は、元農事試験場であった所を、山下義信先生が、戦災によって迷児あるいは孤児となった者を育成する場所として開設されたものである。昭和二十年十二月の頃である。ここは幟町国民学校の分教場として、子供らの教育方面を担当することになった。戦争によって家を失い、両親を失った子供らの心の中には、大きな空洞が出来、他からどんな手がさしのべられても、容易にみだすことの出来ないものであった。向学心など要求するさえ苛酷と思われた。しかし、私達はどうかして一日も早く立直ってくれることを望んだ。どうしたら子供らをなぐさめることが出来るか、どうしたら勉強しようとする意欲が湧くだろうかと、毎夜のように職員会議が続いた。

出典：『私の原爆記』 発行：斗栴正氏 平成3年

- 開館時間** 12月～2月 8:30～17:00
3月～11月 8:30～18:00 (8月は～19:00)
- 休館日** 年末年始 (平成25年は1月1日から開館します)
- 入館料** 無料
- 交通案内** JR広島駅(南口)から約20分
・バス/広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車
・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車
- 駐車場はありません



お問い合わせ先

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL 082-543-6271 FAX 082-543-6273
ホームページ <http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。